



## 鹿児島大学 小児歯科医局この10年の変遷

鹿児島大学小児歯科のこの10年は、平成15年2月1日に九州大学から山崎要一教授が第2代の教授として赴任され、ともに歩んだ10年でした。

まず、大学の名称が同年4月には鹿児島大学歯学部小児歯科学講座から鹿児島大学大学院医歯学総合研究科小児歯科学分野へ、10月には鹿児島大学歯学部附属病院小児歯科から鹿児島大学医学部・歯学部附属病院小児歯科へそれぞれ変更されました。

この10年、学会の開催を活発に行い、平成17年8月4日には第10回成育歯科医療研究会大会、平成18年4月14-15日には第36回日本顎口腔機能学会学術大会、平成18年11月26日には第24回日本小児歯科学会九州地方会大会を鹿児島で開催し、日本小児歯科学会 公開講座を平成18年12月3日（名古屋市）と平成20年11月22日（沖縄県宜野湾市）、平成23年10月9-10日北九州市で中四国・九州地区合同地方会 第29回九州地方会を各大学や開業医各位のご協力のお陰で主催いたしました。

教育面でも学部学生、臨床研修医、大学院生の教育に山崎教授を筆頭に医局員全員で積極的に関わっているだけでなく、外部からの非常勤講師として全国の小児歯科教授、小児歯科専門開業の先生を大勢お越しいただいております。そのため、地方にしながら、当分野では最先端の小児

歯科の講義が受けられるようなカリキュラムとなっています。臨床面では山崎教授の専門である咬合誘導だけでなく、様々な専門外来が設立されました。障がい児・者に対して全身麻酔下集中歯科治療、静脈内鎮静法、笑気吸入鎮静法をより積極的に用いています。口唇口蓋裂児にもHotz床を用いた哺乳指導などの支援に対応するようになっていきます。さらに障がい児の摂食嚥下機能の発達支援として「もぐもぐ外来」を設置し、非常に多くの患者様が受診されています。このように、高度な専門性をもった医療機関として、南九州の小児歯科医療に貢献しています。研究面でも顎口腔機能に関する研究で多くの論文が発表され、大学院生も順調に学位を取得しております。最近では日本学術振興会の科学研究費補助金も医局員の多くが取得できるようになり、今後の研究の発展が期待されています。

人的交流も活発で、早崎治明先生、齊藤一誠先生が九州大学から赴任され（現在は新潟大学教授、准教授としてご活躍）、教育、臨床、研究について多大な貢献をされるなど、人的交流により医局の活性化が図られています。一方、開講30周年を迎えた鹿児島大学同門会の先生方との交流も活発で、若手医局員を非常勤歯科医として受け入れて下さり、医局歓迎会、送別会にも忙しい中、参加下さっています。先日（平成25年1月13日）も鹿児島大学小児歯科創立30周年を祝う会を開催しました。写真をお示ししますように、多くの同門の先生方に本医局は支えられています。

最後に現在の医局員の多くは山崎教授が赴任後に入局し、山崎教授が育てられた10年以内の若い先生がほとんどですが、みんな優秀な小児歯科医に育っており、今後の南九州地域の小児歯科学、小児歯科医療の発展に貢献するものと期待しております。

（文責 岩崎智憲）



鹿児島大学小児歯科創立30周年を祝う会（平成25年1月13日 於レクストン鹿児島）